

会 議 録

平成 29 年 11 月 15 日調製

審議会等名	平成 29 年度 第 1 回三条市文化財保護審議会		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成 29 年 9 月 28 日（木）午後 2 時～3 時 30 分		
開催場所	三条市中央公民館 講義室	傍聴者	1 人
出席者	審議会委員 荒木会長、渡辺副会長、石澤委員、岩田委員、岡村委員、熊倉委員、佐藤委員、関委員、高橋委員、長谷川委員、平山委員、松井委員、松岡委員、六原委員 事務局 渡辺市民部長、金子生涯学習課長、齋藤課長補佐、田村係長、勝山主任、皆木一般任用職員		
欠席者	なし		
議題	(1) 会長、副会長選出 (2) 文化財調査報告について ア 中心市街地（一ノ木戸地区）歴史的建造物調査報告 イ 鍛冶ほか工場歴史的建造物調査報告 ウ 赤松遺跡出土岩偶詳細調査報告 (3) 三条市指定天然記念物芝地鶏（日本鶏）について ア 三条市指定天然記念物芝地鶏（日本鶏）登録台帳の抹消について イ 平成 29 年度芝地鶏（日本鶏）等級審査について (4) 歴史の道八十里越保存・活用事業について (5) 平成 28 年度文化財関係事業報告について (6) 平成 29 年度文化財関係事業計画について (7) 『三条市文化遺産リスト』追加候補物件について		
	1 開会のあいさつ		
	2 議題		
	(1) 会長、副会長選出		
事務局	会長、副会長について、委員の中から互選することとなっているので、推薦をお願いしたい。		
長谷川委員	会長に前会長の荒木委員を、副会長には前副会長の渡辺委員を推薦する。		
事務局	会長に荒木委員を、副会長には渡辺委員をという声があったがいかか。		
	(一同拍手)		
事務局	会長に荒木委員を、副会長には渡辺委員をお願いしたい。		
荒木会長	会長就任あいさつ		
渡辺副会長	副会長就任あいさつ		

	(2) 文化財調査報告について ア 中心市街地（一ノ木戸地区）歴史的建造物調査報告
荒木会長	説明についてどうするか。
事務局	調査を担当していただいた平山委員から説明をお願いしたい。
平山委員	一ノ木戸地区全棟調査は今回で3年目となる。悉皆的に調査対象地にあるすべての建造物の性格・年代を、外観から調べたものである。調査対象は461棟あり、昭和30年代から戦前に遡る、建築後50年以上を経ている建造物は43棟ある。その約1割程度が歴史的建造物で、古い建物が残っている方だと感じた。 これらの古い建物は、県道331号沿いや米泉寺周辺に多く見られた。大きな通りに面して、規模の大きな住宅があり、東三条駅（当初は一ノ木戸駅）が開業した明治30年以降に新道ができた後に建てられたものと思われる。店舗兼住宅では、軒が高くやや時代が下り、昭和戦前期に遡る建物があった。工場も数棟残っており、昭和初期と思われるペンチ工場が見られた。
荒木会長	規模の大きな住宅は平入とあるが、玄関はどの位置にあるのか。また、軒の高い建物は妻面の梁が見えるが、後の修復と考えられるか。
平山委員	住宅は道がカーブをしている角の三角形をしているところに玄関があるので平入とした。 軒の高い建物の妻面は当初のもので、梁を格子状に三段にし、高層に見えるようにしている。軒が高く屋根の勾配がきつくなっているので、建築年代を昭和初期とした。明治時代末から大正時代初期頃の屋根は石置きとなり、屋根の勾配はもっと緩やかになる。この建物はそれに比べるとやや勾配があり当初から瓦葺である。瓦を使うようになるのは、鉄道による流通が行われるようになってからと考えている。
荒木会長	私が子どもの頃には、説明のあった工場の建物はもっとたくさんあったので懐かしい感じがする。
平山委員	調査以前は工場がもっと多く残っていると考えていたが、昭和40年代からは工業団地へ移転されたという事例が多いようである。
荒木会長	他に質問、意見はないか。 (質疑、意見なし)
	イ 鍛冶ほか工場歴史的建造物調査報告
荒木会長	説明についてどうするか。
事務局	調査を担当していただいた平山委員から説明をお願いしたい。
平山委員	この調査は2年目となる。三条の鍛冶の特色ある工場を歴史的建造物として調査し、それが三条の鍛冶の歴史や技術の変遷と関連性があるのではないかとということで実施した。 古い工場だけではなく比較的新しいものも見せていただいた。建物の中に入ると「こういうところでこういう製品が作られているのか」と非常に

	<p>驚いた。すごく古い工場があるのではないかと思っていたが、意外に少なく昭和40年代に移転して大きくなったものが多かった。昭和40年代であっても、50年近く経つので一つの時代層を示しているのではないかと考えている。</p> <p>近藤製作所は鋏を作っている工場、昭和20年代建築の第一中学校校舎を昭和40年代に移築して作ったというもので、古い建物であった。</p> <p>小林製鋏は鋏を作っている工場、昭和40年代に建てた鉄骨造りで、ある意味近代的な形式になっていて、一つの時代層というものを示している。</p> <p>相田合同工場は鋏などを作っている。古い工場を増築している。見るからに古い建物で昭和18年以前からの建物である。洋小屋組で途中で柱を立てなくても大丈夫な造りになっていて、工場には非常に適している。どんな工場でもこれをいち早く取り入れていったことが分かった。</p> <p>三条製作所は和剃刀を作っている工場である。外観は普通の住宅である。移築し、建てたものであった。</p> <p>小由製作所は喰切などを作っている工場、地元の大工さんが建てた木造の建物である。</p> <p>重房刃物は包丁を作っている工場、少しずつ建物を増築している。</p> <p>今井鑿製作所は鑿を作っている工場、建物は昭和20年以後の建築で和小屋組であった。鍛冶の仕事に合った建物の構造で建てているということで驚きであった。このようなどころまで見学者に見てもらいたいのではないかと思った。</p> <p>石川製作所は包丁を作っている工場、平成4年の新しい建物で、基本的には柱のない広い空間で機械や工具、道具を置いて製造している。</p>
荒木会長	質問、意見はあるか。
関委員	対象物件が8件とあるがこれですべてということか。
平山委員	三条鍛冶道場から紹介していただき、まだ予備調査の段階でどういふものがあるかということで建物を見せていただいた。今後、詳細調査の対象となる物件があるか検討することになる。
松岡委員	相田合同工場の内部の写真をみると、天井の方に動力をつなげるシャフトがあるが今も使っているのか。
平山委員	今も使っているとのことであった。いくつかの工場でもこれがまだ残っているところがあり、動かしてくれた。昔はモーターが少なくて、これをつないで数台の機械を動かしていた。今はモーターが安くなったので、機械に個別に取り付けるので使わないところが多い。
荒木会長	「こうじょう」と言わずに「こうば」と言うことにしたのはどういうことか。
平山委員	紹介いただいた三条鍛冶道場でも「こうば」と言っていた。この地域でそのように呼んでいるので「こうば」とした。
荒木会長	他に質問、意見はないか。

	(質疑、意見なし)
	ウ 赤松遺跡出土岩偶詳細調査報告
荒木会長	説明についてどうするか。
事務局	調査を担当していただいた松井委員から説明をお願いしたい。
松井委員	<p>赤松遺跡は縄文時代の後期から晩期の遺跡で、石鏃の製作工房址と考えられている。今回報告する岩偶は、昭和 48 年に三条ジュニア考古学クラブ会員で中学生であった堀川正美さんが赤松遺跡で採集したもので、私のところに堀川さんが持参し、それを見た時は非常に驚いた。すぐ長岡市立科学博物館の中村孝三郎先生に見ていただき、新聞各紙に報道された。岩偶は出土数が非常に少ないので、完全な形で残っているのは新潟県でも数例しかない。</p> <p>この岩偶は、縄文時代後期から晩期中葉、約 3,500 年前から 2,500 年前のものである。頭部は五角形と考えられ、胴部は平らで下部は表裏とも彫り込みによって二つに分かれ脚部が表現されている。顔面は、眉が浮彫りで表現され、目と口は孔によって刻み込まれている。特に口は深く彫られており、脇に点々と小さい穴が開いている。口の周りには、赤彩されていた跡がいくつかある。表裏面に縦長に線条痕が付いている。石材は泥岩と考えられる。</p> <p>この岩偶は、平成 28 年に日本遺産に認定された構成文化財の赤松遺跡出土品の一つであり、早急に市指定文化財に指定し、適切に保存・活用が図られることが望まれる。</p>
荒木会長	赤彩してあるということだが、他の色が使われていた可能性はあるか。また、口の周りの細かい穴は何を表しているのか。
松井委員	長い間、土中にあったので全体に薄汚れた感じがして黒っぽい部分もあるが、赤彩しかされていない。口の周りの細かな穴は色々な説があるが、縄文時代の土偶に点々をたくさん描いてあるものがあり髭と言っている人もいるが、はっきりとは分からない。
荒木会長	報告の写真はほぼ原寸であるか。
松井委員	写真の方が実物より少し大きい。長さが 7 cm 程度である。
石澤委員	赤松遺跡で発見されたということだが、この遺跡からほかの岩偶は出土していないのか。また、赤彩に使われた原料は遺跡の周辺で採れたものか。
松井委員	私がもう 1 点採集したものがあつた。完形ではなく破片であるが、縄文晩期の文様が描いてあつた。赤彩に使われた原料は酸化鉄の石だと思うが、遺跡周辺である程度採集できる。
高橋委員	これを見た感想だが、口を開けて泣いているように見える。
松井委員	そのようにも見えるかもしれない。
渡辺副会長	写真を見ると、額のところに横に出っ張っているものが見られる。祭祀に使われたのではないか。岩偶は非常に少ないということであるが、県内でどれくらい出土しているのか。

松井委員	出っ張っているところは眉と思われる。県内の岩偶の出土数だが、報告書などから 10 点程度と思う。
松岡委員	岩偶はどのように作られているのか。
松井委員	泥岩であるのでそれほど固くない。全体が磨って形作られている。
岩田委員	土偶と岩偶では用途などで違いはあるのか。
松井委員	土偶は出土するほぼすべてが割れていたり欠けていたりし、人為的に当時の人間が割ったものである。この岩偶はほぼ完形なので使われ方が違っているのかもしれない。
荒木会長	他に質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(3) 三条市指定天然記念物芝地鶏（日本鶏）について
	ア 三条市指定天然記念物芝地鶏（日本鶏）登録台帳の抹消について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	三条市指定天然記念物に指定されている芝地鶏（日本鶏）は、三条市日本鶏保存会が市と共催で実施している三条市芝地鶏（日本鶏）等級審査会で優良品種となったものを本審議会で審議し、三条市指定天然記念物芝地鶏（日本鶏）登録台帳に登録している。台帳に登録のある芝地鶏のうち 10 羽について、その所有者から滅失届の提出があったので、この芝地鶏を登録台帳から抹消したい。
荒木会長	質問、意見はあるか。
渡辺副会長	亡くなった理由が老死ということであるが、事故死というの也被考えられるがどうか。
岡村委員	一般的に 7 歳くらいまでは大丈夫であるが、それを過ぎると大体寿命である。事故死もあり、ネズミとかカラスよるものが結構ある。
荒木会長	他に質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
荒木会長	滅失届があった芝地鶏 10 羽について、登録台帳から抹消することによっていいか。
	(異議なし)
	イ 平成 29 年度芝地鶏（日本鶏）等級審査について
荒木会長	説明についてどうするか。
事務局	等級審査を担当していただいた岡村委員から説明をお願いしたい。
岡村委員	平成 29 年 8 月 6 日に栄庁舎玄関前において、外部の方 2 人に審査員を依頼し芝地鶏（日本鶏）等級審査会を開催した。芝地鶏 6 羽の出品があり、メス 2 羽が A ランクの優良品種となった。1 羽は審査項目 12 項目のうち 9 項目が非常に優れていて、もう 1 羽は 10 項目が非常に優れていた。残りの 4 羽については、全く悪いということではなく、若鶏で体重が軽いとか、あるいはまだ完全に体の器官ができていないなどの点で評価が下がってしまった。

	最近は芝地鶏を飼っている方が非常に少なくなっている。若い方からも飼っていただきたい。
荒木会長	質問、意見はあるか。
六原委員	今年は若鶏で審査評価が低かったようであるが、血統が大事だと思うので、交配して次の代にというようなことはしないのか。
岡村委員	優良品種にならなかった芝地鶏でも、項目によっては評価の高い部分がある。例えば毛の色はいいが脚が短いとかという場合である。飼育している方はいい部分を組ませて優良な形を出そうとするので、優良品種とならなかった鶏とも交配させている。
荒木会長	今回の審査の出品は6羽だが、そのうち2羽が優良品種になったが、いつもこのような比率であるか。
岡村委員	毎年出品数は限られていて5、6羽の出品があり、優良品種になるのは1、2羽である。
高橋委員	等級審査会は、三条市内の方だけではなく市外の方も出品できるのか。
岡村委員	この審査会は、三条市指定天然記念物の等級審査なので、三条市内の芝地鶏が対象となる。
荒木会長	質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
荒木会長	等級審査で優良評価となった2羽について、登録台帳に登録することによっていいか。
	(異議なし)
	(4) 歴史の道八十里越保存・活用事業について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	歴史の道八十里越は、平成5年度に新潟県教育委員会が主体となり歴史の道調査事業が実施された。また、平成8年度には、文化庁が古くからの文物や人々の交流の舞台となってきた古道を「歴史の道」として、全国で遺存状況が良好な78か所の街道・運河を「歴史の道百選」に選定し、その中に吉ヶ平から只見町叶津までの八十里越も選定された。三条市では平成27年度から「歴史の道八十里越保存・活用事業」を開始し、歴史の道八十里越の所在する只見町、魚沼市と連携する中で、八十里越の現状調査、関係機関との協議を行ってきた。また、文化庁、福島県、新潟県、それに3市町での合同現地踏査も実施した。それらを踏まえ、文化庁の歴史の道百選に選定されている八十里越の国指定史跡の指定を目指し、今後、調査・史跡整備を進めていくこととなった。 調査、史跡整備を進めるにあたっては、調査・整備検討委員会を3市町合同で今後設置する必要があると考えており、文化財保護審議会からも委員などの推薦をお願いすることになると思っている。
荒木会長	質問、意見はあるか。
関委員	測量調査を実施するとういことだが、ルートは、江戸時代や明治時代の

	ものなどいくつかあるが、平成5年度に新潟県教育委員会が実施した調査のルートで測量するのか。
事務局	三条市部分の八十里越のルートは、吉ヶ平から鞍掛峠までの魚沼市との市境までの間で、天保14年の大改修によって馬や牛が通れるようになったルート、また、その後明治の大改修で荷車が通れるようになったルートがある。近年まで使われていたのは、明治の改修によって残されていた部分で県道として残っているルートであり、新潟県教育委員会の歴史の道として調査されている。測量調査は県道として残っているルートを対象とするが、江戸時代の旧街道も良好に残っていればそこも対象とする可能性がある。
荒木会長	八十里越はいくつものルートがあり明治の改修で良くなったが、大正15年の大洪水で崩落してしまい以後使われることがなくなった道であるが、それ以前は越後から関東に出る道として非常に多く使われていたということである。それを踏まえて八十里越の保存・活用が進められることは有意義なことであると思う。
荒木会長	質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
荒木会長	事務局からの説明で、歴史の道八十里越の調査・整備検討委員会が今後設置される予定と説明されたが、事務局から当審議会に委員候補者の推薦などの依頼があったら必要とされる専門分野などを考慮し、会長、副会長で相談して選出することで御一任いただけるか。
	(異議なし)
	(5) 平成28年度文化財関係事業報告について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	平成28年度文化財関係事業は、文化財保護審議会を2回開催した。文化財指定・登録は国登録1件、市指定1件である。文化財の調査・管理については、建造物、古文書、考古資料、下田郷のいしぶみ、吉ヶ平の民具の調査を実施した。文化財等の貸出、資料提供は5件あった。文化財の公開・活用は、下田郷のいしぶみ調査の成果を活用していしぶみめぐりや歴史的建造物探訪ツアーなどを実施し、参加者から大変好評をいただいた。 埋蔵文化財の調査では、石田遺跡、梅田遺跡、犬川原北遺跡の本格的な発掘調査を行った。また、開発予定に伴う埋蔵文化財の基礎資料を整備するための試掘・確認調査を実施している。その他、文化庁の歴史の道百選に選定されている八十里越の現地確認調査や関係機関と調整を只見町、魚沼市と連携し実施した。埋蔵文化財の管理・活用としては、開発に伴う埋蔵文化財の所在照会が年間147件あった。遺跡発掘調査の成果を活用した事業として、遺跡展示会、遺跡体験出前講座や遺跡めぐりなどを実施した。その他、信濃川火焰街道連携協議会事業としては、日本遺産認定を受けて、日本遺産魅力発信推進事業などを実施した。

荒木会長	多くの事業をやっている。遺跡の活用として、例えば平安・室町時代の遺跡の発掘調査が進んでいるので、平安時代の三条とか、室町時代というようなマップが作れそうな気がするがどうか。
事務局	いくつかの遺跡の発掘調査で成果が蓄積されてきている。それらの成果を展示会などで公開するような時に、各時代をテーマにしたようなパネルが作成できないか検討していきたい。
荒木会長	質問、意見はないか。
	(質疑、意見なし)
	(6) 平成 29 年度文化財関係事業計画について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	平成 29 年度文化財関係事業計画であるが、文化財保護審議会は 2 回を予定している。文化財の調査では、建造物、古文書、中浦歌舞伎、下田郷のいしぶみなどの調査を実施する。文化財の公開・活用としては、下田郷のいしぶみめぐりや企画展などを開催する。 埋蔵文化財の調査では、国道 403 号三条北バイパス事業に伴う石田遺跡・梅田遺跡などの発掘調査、開発に伴う遺跡試掘・確認調査など多くの調査が予定されている。埋蔵文化財の活用では、遺跡展示会、遺跡体験出前講座などを開催する。その他、信濃川火焰街道連携協議会事業として、日本遺産魅力発信推進事業に取り組むことになっている。
荒木会長	質問、意見はあるか。
平山委員	中浦歌舞伎調査について、中浦歌舞伎の衣装や台本しか残っていないということか。また、どこで演舞をされていたのか。
事務局	今回の調査は、地元衣装や台本がどのくらい残っているか所在状況の確認調査を行う予定である。 中浦歌舞伎は地元の神社や下田地区の各集落などで開催されていた。中浦小学校が閉校される平成 8 年にそこで演舞されたのが最後である。
平山委員	地元で演舞される時は、舞台とかを作るというものではなかったのか。また、舞台を作ったのであれば残っていないのか。
事務局	中浦地区に伝承されてきたもので、地元の神社に仮設の舞台を作って演じたと聞いているが残っていない。
関委員	中浦歌舞伎について、加茂にあった一座の衣装を買い取ったとなっていたので、どのくらい残っているのか中浦地区を訪ねたことがある。衣装もぼろぼろではあるが残っていた。地元の神社に奉納額も残されている。
事務局	中浦歌舞伎保存会があったが今はなくなっており、自治会長などから協力をしていただいて調査を進め確認したい。
荒木会長	三条神楽や栄神楽が指定文化財としてあるが、下田地区にもかなりの神楽が舞われている。今後調査を考えているか。
事務局	下田村の時に、社会科の先生方で下田村の伝統芸能という調査がされている。それによると下田村に伝承している神楽は、明治時代以降に伝承さ

	れたもので、主に三条地区などから伝承されたと伝えられている。時代的に江戸時代まで遡るものではないことから今後調査の実施は考えていない。
荒木会長	質問、意見はないか。 (質疑、意見なし)
	(7) 『三条市文化遺産リスト』追加候補物件について
荒木会長	事務局より説明願いたい。
事務局	市内に所在する指定や登録になっている以外の文化遺産について、保護が必要な物件を文化財保護審議会委員から推薦していただき、現在 153 物件をリストに掲載している。リストに掲載されていない未指定の物件で、保存・活用が必要と認められる市内所在の文化遺産があったら調査票を提出していただきたい。
荒木会長	何か質問、意見はあるか。 (質疑、意見なし)
荒木会長	これで閉会とする。